

## 片付けが下手なのは生まれつき！？

片付けができない子に、「あんたって子は。何度言ったら分かるの。使ったら片付ける。当たり前のことですよ。いつになったらできるの。」と叱っていませんか。小さいうちに身に付けてあげないと、大きくなってから困るから、だから、何度も言ってしまう。

とてもよく分かります。でも、片付けることが上手か下手かは、生まれつきだそうです。それは、家族4人のうち、3人は片付けが上手だけど、1人だけは片付けが下手だということは、よくあることです。反対に、1人だけ片付けが上手だということもあります。

生まれつきだと聞くと、安心する部分もありますが、では、どうやって直せばよいのでしょうか。最初に書いたように、できない子に叱っても、自己肯定感が低くなっていくだけで、できるようにはなりません。生まれつきだから直らないとあきらめると、子どもは見放されたと感じることがあります。親ができることは、片付けられるように工夫することです。

まず、最初にやることは、いらぬものは捨てることです。物が多いと片付けが難しくなります。子どもと一緒にいる物いらぬ物を分けるとよいです。

次に、簡単に片付けられるように、ワンタッチ収納に心がけることです。例えば、物を置く位置がものと同じ形になっていて、ぴったりはまるようになっているとか、ラベルを貼って片付け方が見て分かるようになっているとか、様々な方法が考えられます。

他には、片付けタイムを楽しくできるように、お遊びの時間が終わったら、3分間の音楽が流れるようにするのはどうでしょう。子どもが好きなテレビ番組の主題歌を流し、音楽が鳴りやむまでに片付けるようにします。

もし、様々な工夫をしてもできるようにならない場合は、一緒に片付けてあげたり、親が片付けてあげたり、生まれつきにもっているものなのでとあきらめて手をかけてあげることです。一番ダメなことは、「ここまで工夫してあげてるのに、何であなたは片付けることができないの。」と叱ってしまうと、子どもは、自己肯定感がボロボロになってしまいます。自分はできない子、ダメな子、どうせ自分にはできないとすぐにあきらめてしまう子になってしまいます。

いつまでも改善しないかということ、大人になったら少し改善されるようになります。大人の方が危機感があり、自分で治すように努力するようになります。片付けができないのは生まれつきだからしょうがないと思い、大きな心で接してあげることが大切です。

参考：テレビ寺子屋 親野 智加等